呼吸器疾患とSDGs

医学部　教授　礒部 威

呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺がん、間質性肺炎）は、日本人の主要な死因の一つです。呼吸器領域におけるSDGsは、感染症や非感染性疾患の予防と治療へのアクセスを強化することを目指しています。当教室では具体的対策として、ワクチン接種（インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、肺炎球菌）の啓発と接種率向上への取り組みを行っています。また呼吸器疾患の予防として、禁煙外来を設置し、禁煙プログラムの推進を行っています。呼吸器疾患の早期診断の目的で、低線量CT（車載型）検診をJAグループ島根健康管理センター島根県厚生農業協同組合連合会と共同で行い早期肺癌を含む、呼吸器疾患の早期発見に取り組んでいます。研究面では、肺気腫の自然発症マウスを用いた慢性閉塞性肺疾患の発生メカニズムの検討、低線量CT検診のデータに基づく慢性閉塞性肺疾患の早期発見のための問診票を作成しました。また、島根県で、地域の呼吸器疾患の患者さんを支え続ける基盤を作り、持続可能な呼吸器診療の活性化と発展へ繋げるためにクラウドファンディングに挑戦し、成功しました。今後は継続して「呼吸器専門医」の人材育成と生涯教育、呼吸器疾患の診断、治療内容を一般市民、患者さん、専門外の医療者にも広く啓発し、社会ならびに個人の呼吸器診療に対する価値観を変えていく必要があります。啓発活動によって疾患の理解が深まるため、診断や治療を希望する患者さんの受け皿となる呼吸器診療チームの強化が重要と考えています。